

米FOMC、テーパリング加速を決定。2022年は3回の利上げ見通し

- 声明文から「物価高騰は一時的と期待」との見方を削除
- テーパリング加速を決定。来年利上げ3回実施の予想に
- 利上げとバランスシート縮小の開始時期が今後の焦点に

■ 市場の想定よりタカ派（利上げに前向き）か

米国での今年最後のビッグイベント、FOMC（連邦公開市場委員会）の結果が日本時間16日未明、発表されました。金融政策の主な決定、変更点は以下の通り、市場の想定より「利上げに前向きな姿勢」を示しました。発表後、株式市場は金融政策の不透明感払拭を好感、ドル円は\$1=114円超え、米10年国債利回りの上昇も小幅と冷静な反応でした。

①政策金利：0-0.25%で据え置き。

②声明文：物価高騰は一時的（transitory）との従来文言は削除、来年半ばにかけ持続の公算高いとしました。

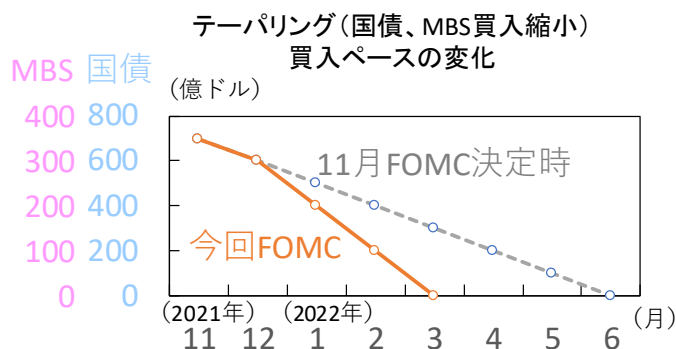
③テーパリング：物価加速懸念から、11月より開始の資産買入縮小（テーパリング）はペースを加速。国債は月\$200億（当初\$100億）、MBS（住宅ローン担保証券）は月\$100億（同\$50億）に減額幅を拡大、来年3月終了予想（図1）。

④ドットチャート：FRB（連邦準備理事会）理事、地区連銀総裁らの政策金利予想（通称ドットチャート）。2022年は3回（中央値：+0.25%/1回）の利上げ、2024年には政策金利は+2.25%へ達するとし、9月FOMC比上方修正（図2）。2022年の利上げ開始時期は、今後のFOMCで都度議論へ。

⑤経済見通し：物価（PCEデフレーター）は2022と23年を、実質GDPは22年を上方修正等。失業率改善を示唆（図3）。

パウエルFRB議長は記者会見にて、今後数回の会合でFRBバランスシートの縮小タイミング等を協議と発言、今後この点が金融市場の焦点になるとみています（徳岡）。

【図1】テーパリング加速決定は予想通り

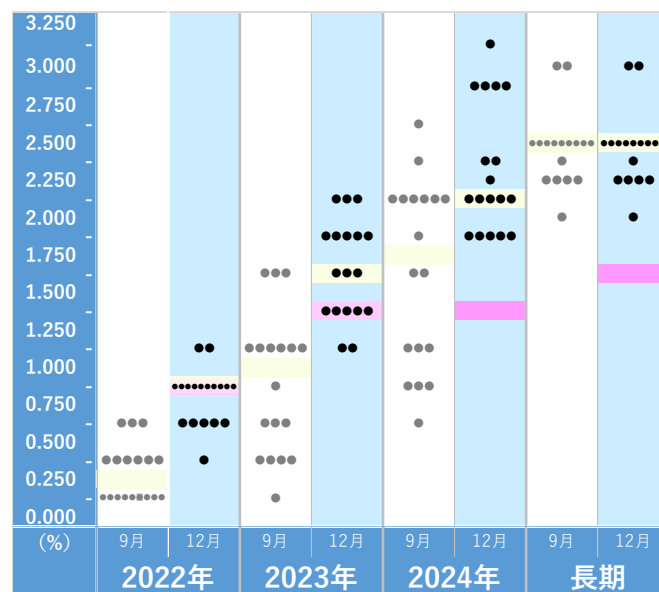


注) 買入ペース、終了時期は今後変更される可能性あり。

出所) FOMCより当社経済調査室作成

【図2】FOMCの政策金利予想は市場予想より強い

米FOMC ドットチャート

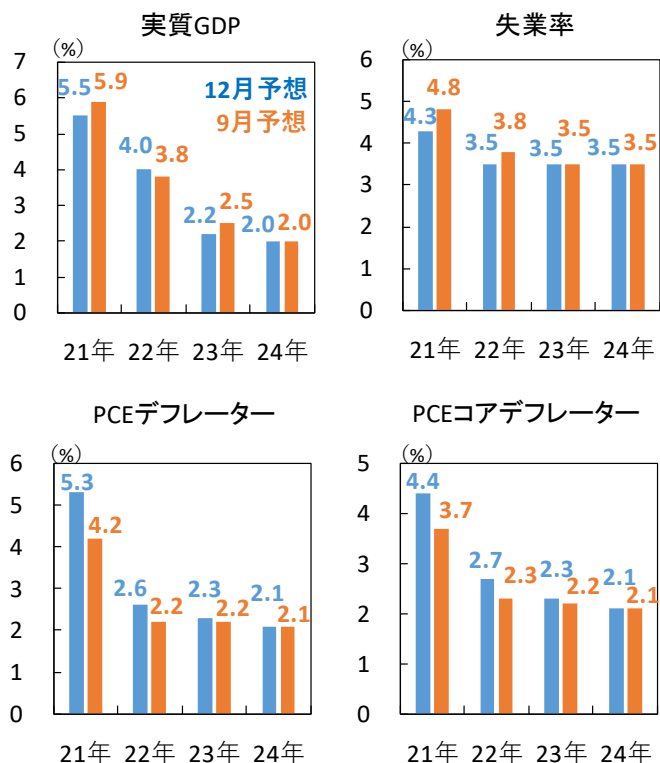


注) 2021年は省略(変化なしと予想)。黄色はFOMC中央値、ピンクは短期金利市場が織り込む金利水準(2021年12月15日時点)。

出所) FOMC、Bloombergより当社経済調査室作成

【図3】物価の安定には長い道のり

米FOMC 経済見通し(2021年12月)



注) 長期見通しは割愛。

出所) FOMCより当社経済調査室作成



本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、投資環境等に関する情報提供のために三菱UFJ国際投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の三菱UFJ国際投信戦略運用部経済調査室の見解です。また、三菱UFJ国際投信が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。



三菱UFJ国際投信

三菱UFJ国際投信株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

Mitsubishi UFJ Kokusai Asset Management

